

# 阪神甲子園球場

兵庫県西宮市

内野スタンドを覆う約7,500㎡の大屋根は、阪神タイガースのホームグラウンドで、高校野球の聖地である阪神甲子園球場のシンボルだ。「銀傘」の愛称で野球ファンに親しまれ、雨を凌ぎ、日射を防いでくれる。銀傘と呼ばれるのは、屋根の素材が金属（現在はガルバリウム鋼板）で、その光沢から銀色の傘のように見えるためだ。完成した1924年当時は鉄製だったため「鉄傘」と呼ばれた。戦時中の鉄の供出で撤去、戦後の1951年にアルミ合金の一種、ジュラルミン製の屋根が再び構築され、銀傘の愛称になった。現在は2009年にリニューアルされた4代目。銀傘とは粋なネーミングだ。

工事記録を紐解くと、完成した1924年は、野球だけでなく陸上競技や他の球技場としても使えるよう建設されたため「阪神電車甲子園大運動場」の名称だった。設計者は阪神電鉄の野田誠三技師。着工から竣工まで4.5カ月という驚異的な工期は特筆される。2007年には全面的なリニューアル工事が始まり、シーズンオフの秋から春にかけて3カ年（3期）にわたって続けられた。

2009年3月竣工の第2期工事で現在の4代目銀傘への架け替えが実施され、大きさがそれまでの1.4倍になり内野スタンドのほぼ全体を覆うことになった。銀傘はスタンド奥から片持ちで支える構造となり、中段の柱がなくなって視認性が向上した。他に耐震補強やソーラーパネルの設置、銀傘と並ぶ甲子園のシンボル・球場外壁のツタも再植樹された。

小雨が降る撮影当日、銀傘からグラウンドを眺めていると、雨に泣いた高校球児たちがいたことが思い起こされた。



甲子園球場の「誕生日」は1924年8月1日。この年は十干、十二支のそれぞれの最初の甲（きのえ）と子（ね）が60年ぶりに出会う縁起の良い年だったことから球場と周辺地域が「甲子園」と名付けられた。「アルプスタンド」の命名は漫画家の岡本一平さんによるもので、夏の高校野球が白いシャツのファンで超満員になることからイメージした。